

木造獅子



指定区分	県指定重要文化財(彫刻)
読みかた	もくぞうしし
所在地	倉敷市児島下の町
指定年月日	令和5年3月14日
解説	<p>両像ともに片方の前脚を前方へ出して胸を強く張り出し、前脚を踏ん張る姿勢である。身体は細身で、全体的に引き締まった印象を受ける。頭頂部に角の痕跡はなく、獅子と分かる。</p> <p>両像の底部には「建武三年丙子 正月廿九日 慶尊」という銘文がある。</p> <p>鎌倉時代後期から南北朝時代初期にかけての図像的な表現に忠実で、保存状態も良く、日本彫刻史上の在銘作品として貴重である。</p>
アクセス方法	瀬戸大橋線 上の町駅から徒歩27分 児島ICから自家用車で12分
公開状況	非公開
設備	駐車場  トイレ 
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(彫刻)
ぶんかざいめい (文化財名)	木造獅子
よみかた	もくぞうしし
しょざいち (所在地)	倉敷市児島下の町
していつひ (指定した日)	令和5年3月14日
せつめい	<p>2体とも片方の前脚(まえあし)を前方に出して胸を強く張り、前脚を踏ん張っています。身体は細身で、全体的に引き締まった印象です。頭に角の痕跡(こんせき)がないことから狛犬(こまいぬ)ではなく獅子(しし)と分かります。底には墨(すみ)で年号や人名が書かれていました。</p> <p>鎌倉(かまくら)時代後期から南北朝(なんぼくちょう)時代初期にかけて造られたと考えられています。保存状態も良く、貴重です。</p>